



令和4年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立北部中学校	学校No.	51
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>目 標： コロナでも優しい心であるように、緑化活動を推進する。</p> <p>計 画： 年度末・年度初めの見ごろを目指し、12～2月に活動する。</p> <p>推進体制： 校務主任、美化担当、美化委員会、外掃除担当生徒</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>委員会、清掃の時間を利用して、花の球根植え、種まき、苗植えを行った。</p> <p>美化委員が当番として、水やりを行った。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>自分たちが植えたこともあり、水やりまでしっかりと行っていた。また、春が近づくにつれ、日に日に花も増え、校内が色鮮やかになってきている。そのことで「お花きれいだね」と、先生や級友にほめられ、美化委員会、そうと掃除の生徒たちは満足げであった。</p> <p>ただ、一部の生徒での活動であった。今後より多くの生徒が緑化推進に携わるシステムづくりの必要がある。</p>			
 			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立中部中学校	学校 No.	5 2
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本校は「社会福祉への関心と理解をいっそう深め、交流や体験を通して『福祉の心』を育てる」というねらいをもって、福祉教育を推進してきた。本年度も、「社会福祉推進校として、人権教育、思いやり教育の推進」を重点目標として設定し、福祉教育推進委員会、学年、生徒会を中心に以下のような目標を掲げ、計画立案、実践に取り組んだ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○福祉実践教室を通して、支え合いながら共に生きる社会づくりを理解するとともに、日常的な実践活動の契機とする。</p> <p>○ボランティア体験活動、勤労・福祉体験活動を通して、弱者への配慮と勤労の喜びを体験し、今後の社会生活に生かす。</p> </div> <p>本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年取り組んでいる実践を行うことができなかった。しかし、少しでも本校のねらいに迫るよう、代わりとなる実践を行った。</p> <p>2. 福祉教育の具体活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 福祉実践教室 (R4.10.19)</p> <p>初めにビデオ視聴をし、障害のある方の立場を理解するとともに、実際に自分たちに何ができるかを考えた。実践教室当日は、最初に講師の方からお話を伺った後、クラスごとに、車いす体験、手話、高齢者疑似体験、点字、視覚障害者ガイドヘルプなどの各講座に分かれ、講師の方のお話を聞いたり、実際に体験をしたりした。体験後の感想には「『不便は不幸ではない』ということを学んだ。これから、もし身体の不自由な方が困っている場面に出会ったら、声をかけたり、手伝ったりできる人になりたい」や「障害があっても無くても、すべての人が安心して生きていける世の中になるといいと思う」などとあった。福祉実践教室を通じて、すべての人が共に助け合いながら生きていくために必要な「心の持ち方」と「行動のとり方」について学ぶことができた。</p> <p>(2) 中中夢トーク (R4.11.15)</p> <p>「中中夢トーク」は、現在社会の中で活躍してみえる中部中の先輩から「自分が頑張ったことや壁を乗り越えたことなどの体験談」や「自分が心がけていること」などのお話を聴くことで、現在在学中の中中生がこれから夢や目標に向かって頑張っていくための「きっかけ」や「ヒント」をもらいたいと考えて開催した。</p> <p>(3) 映画鑑賞会 (R4.11.28)</p> <p>午前の部と午後の部の2グループに分かれて人権映画鑑賞会を行った。「脊髄小脳変性症」という難病と闘い、短い生涯を懸命に生きた少女をモデルにした映画「1リットルの涙」を鑑賞した。絶望的な状況でも必死に生きようとする少女と家族の前向きな姿から多くのことを学ぶことができた。</p> <p>3 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>福祉実践教室では、障害をもっている方々の生活を体験することで、障害者の方々にどんな気持ちで接するとよいか、またどんな援助ができるのかを考えるよい機会となった。福祉の実践とは、思いやりを行動に移すことだという基本的な心構えも学ぶことができ、今後もこのような機会をもてるとよいと感じた。</p>			




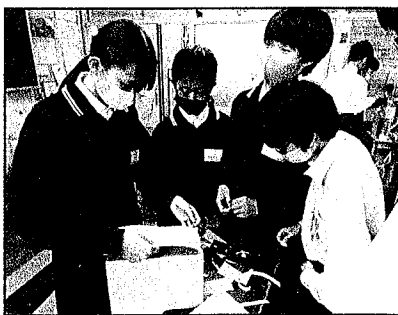
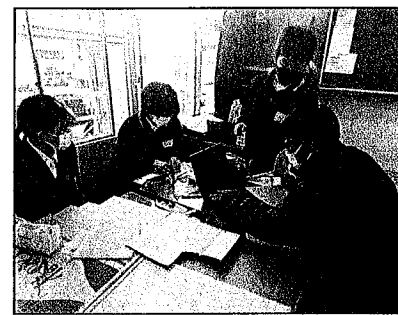
令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立南部中学校	学校 No.	53
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 本校の教育目標 心身ともに健康で、知・徳・体の調和のとれた、思いやりのあるたくましい生徒を育成する。</p> <p>(2) 福祉教育目標 社会福祉に関する実践学習を通して、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア・社会連帯の精神を養う。</p> <p>(3) 手立て・計画 ①体験活動…障害者の立場を理解する体験や障害者の活動を支援・援助する体験活動を行う。 ②理解を深め、意識を高める…障害者を理解し、思いやりのある接し方を身につけることで福祉・ボランティアの意識を高める。 ③実践力を養う…広くボランティア活動参加を呼びかけ、いろいろな場を実践させることで、進んで福祉活動、ボランティア活動ができる生徒を育成する。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>5月・浅野つつじ祭りボランティア参加 11月・赤い羽根共同募金の実施 12月・緑化委員は、運動場のフェンス周りにパンジーの苗を植える緑化活動を行った。 1月・福祉実践教室開催 ・1年を通してのあいさつ運動、リサイクル活動</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>今年度は、コロナウイルス対策により、様々な福祉活動、ボランティア活動が実施できなかつた。しかし、委員会や生徒会で、校内で実施できる活動に取り組んだ。福祉実践教室では、社会福祉協議会の方々と協議を重ね、生徒のグループワークを取り入れた新しいモデルの福祉実践教室の活動を行うことができた。</p> <p>来年度は、できる限り積極的に活動に参加していきたい。今年度は実施できなかった各種ボランティアの紹介を行い、多くの生徒がボランティア活動に興味を持ち、参加できるよう計画していきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立葉栗中学校	学校No.	5 4
<p>1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本校は平成4年度に、社会福祉協力校の指定を受け、「社会福祉への関心と理解をいっそう深め、交流や体験を通して『福祉の心』を育てる」というねらいを持って、福祉教育を推進してきた。本年度も、「一宮特別支援学校との交流、社会福祉推進校としての取り組み等を通じた人権教育、思いやり教育の推進」を重点目標として設定し、福祉ボランティア委員会、各学年、生徒会を中心に以下のような目標を掲げ、計画を立案し、実践に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一宮特別支援学校との交流を通して、障害のある方への理解推進を図る。 ○ 福祉実践教室を通して、支え合いながら共に生きる社会づくりを理解するとともに、日常的な実践活動の契機とする。 ○ ボランティア体験活動、勤労・福祉体験活動を通して、様々な人への配慮と勤労の喜びを体験し、今後の社会生活に生かす。 <p>2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 活動名 特別支援学校交流 (1年)</p> <p>(2) 活動時期 6月 12月 1月</p> <p>(3) 活動計画 6月 オンラインでの交流 12月上旬～中旬 おもちゃづくり 12月26日(月) 特別支援学校へおもちゃ贈呈</p> <p>(4) 活動状況</p> <p>本年度は一宮特別支援学校の生徒と本校の生徒がそれぞれ5つのグループに分かれ、事前にZOOMでの交流会を行った上で、おもちゃ作りに取り組み、心の通じ合いを図った。</p> <p>(5) 成果と反省</p> <p>昨年度に引き続き、一宮特別支援学校との交流会は、オンラインでの対話及びおもちゃ作りを行った。昨年度は代表生徒のみの交流であったが、今年度は1年生の全生徒が参加することができた。その後、各クラス5～6班に分かれ、Chromebookを活用しながらおもちゃの作成に取り掛かった。多くの生徒が、相手の好きなものは何か、喜んでもらうにはどうしたらよいかを考え、試行錯誤しながら取り組んでいた。完成した計28個のおもちゃは、12月26日(月)に一宮特別支援学校に届けた。一宮特別支援学校からは、おもちゃを楽しんで使っている様子のスライドや、生徒が書いたお礼の手紙を送ってもらった。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">【おもちゃ作成の様子】</p>			
<p>3 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>本校では、めざす生徒像の一つとして「心豊かな生徒の育成」を掲げている。一宮特別支援学校との交流も約30年続き、福祉推進校としての活動は30年を数えている。コロナ過でできなかった直接交流の場を来年度はもっていきたい。</p>			

令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立西成中学校	学校 No.	55
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉に関する実践学習の機会を通して、福祉への関心を高める。 <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室、一宮東特別支援学校との交流会、ボランティア福祉体験学習、生徒会による募金活動やあいさつ運動 などの実践 <p>推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室は、1年学年主任を中心に計画し、第1学年の学習内容として活動を行う。 ・一宮東特別支援学校との交流会は、2年学年主任を中心に計画し、第2学年の学習内容として活動を行う。 ・ボランティア福祉体験学習は、福祉教育担当教師が中心となり、他の教職員の協力を得て進める。 ・生徒会による募金活動やあいさつ運動は、生徒会担当教師が中心となり、定期的に活動を行う。 <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室（6月） 「車椅子」「ガイドヘルプ」「高齢者疑似体験」「手話」「点字」の5つの講座の中から1つの講座を受講して、さまざまな体験活動を行った。 ・一宮東特別支援学校との交流会（12月） 一宮東特別支援学校の中学部生徒を、本校に招き実施した。本校生徒が企画したレクリエーションに参加してもらい、交流を深めた。 ・ボランティア福祉体験学習（7、8月） 参加希望者を募り、「たんぼぼ加茂の里」「あすか」の福祉体験学習に参加した。 ・募金活動（5月、11月） 「赤い羽根」「緑の羽根」の募金活動を行った。 ・認知症サポーター養成講座 地域づくり協議会と連携し、地域包括支援センターアウンの協力を得て、全校生徒を対象に実施し、認知症の正しい理解と支援の仕方を学んだ。 ・あいさつ運動 コロナ禍のため、本校生徒が西成小学校、瀬部小学校に向向いて行うあいさつ運動は実施せず、PTAと連携し、校内のみで実施した。 <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>成果</p> <p>福祉実践教室では、3年ぶりに生徒一人一人に対して、体験活動をさせることができた。体験活動を通して、多くの生徒が障がい者の生活や気持ちを理解し、関心を高めることができた。また、障がい者への対応の仕方について改めて考えることもできた。</p> <p>今後の課題</p> <p>昨年度に引き続き、コロナ禍で生徒会執行部と打ち合わせをする時間を設けることが難しく、ユニセフ募金を行えなかった。昨年度も実施していないため、次年度はユニセフの活動内容を生徒に紹介してから、募金活動を実施したいと考えている。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。